

令和7年度 第1回いじめ問題専門委員会 要旨

日時 令和7年9月26日(金)
午後1時30分～午後3時
場所 上山市役所3階 301会議室

1 開会

2 教育委員会挨拶(教育長)

自己紹介
委員長・副委員長の選出と承認

3 報告及び協議

(1) 令和6年度のいじめに関する取組及び調査結果について

・別紙参照

【質疑応答等】 特になし

(2) 令和7年度取組について

・別紙参照

【質疑応答等】

●いじめは、中学校より小学校の方が多いいというが、中学校は少ないのか。

【回答】小学校では、ちょっとしたこともいじめにカウントされることが多い。全国と比べて山形県はいじめの認知件数が非常に高い。それによって、教員が見逃さず対応していきたいと考えている。

●パソコンや携帯電話等のいじめも小学校の方が多いい。所持率は中学の方が高いと思うが、カウントしていないということか。

【回答】基本的に小学校の人数が多いということがある。小学校では、ちょっとしたことも言ってくれるので、中学校でもそうなると思う。上山市の携帯の所持率は小学校で40%ちょっと、中学校が80%ちょっとくらいだ。山形県全体でメディアを介したいじめが増えているので、モラル教育をしっかりとしていかなければいけないと考えている。

(3) 各学校より

①令和7年度いじめに関する取組について

②令和7年度いじめの状況及びその対応について

・宮川小学校と宮川中学校より報告(別紙資料参照)

【質疑応答等】

●障がいを持つ子どもは、いじめとは認識できずに被害者になったり加害者になったりする。そこをどうやって洗い出していくか。

【回答】いじめの発見はアンケートと直接の訴えがほぼ100%。発信されないと見落とすかも。アンケートに頼らない認知に力を入れる必要がある。

【回答】自閉的な特性を持った子がいても、少人数では地位と見守りが出来ていることがあるが、その子どもの表情や授業の様子を積極的に見ていく。完全に心を閉ざしている子どもにはさらなる対応が必要。

●アンケートは教室の自分の席で行うのか。近くに本人がいて書けない子ども

もいるのではないか。

【回答】極めて簡単な方式にしている。気になるところに○がついていたら個別に話を聞く。アンケートと面談がセット。

●子どもの環境が変わっている。子ども同士で遊んで、子ども同士でトラブルを解決する環境はなかなかない。家庭も共稼ぎが多く、子どもと向き合って話す機会もなかなか持てない。先生方に学校で向き合ってもらっている時間は、子どもにとっては大切な時間だと感じる。解決のスキルを学ぶ機会。(感想)

●いじめ対応は課題対応的なところが多いと思う。発達支持的な取組があったら教えていただきたい。

【回答】日常的な教師の接し方、子ども同士の関わらせ方が、まさに発達支持的な部分だと思う。子どもに任せる部分、子ども同士の関わりを普通の授業の中で育てていきたい。

【回答】校内の授業研究、授業づくりの柱が子ども同士の響き合い。子ども同士の対話を大事にしている。生徒会でも人間関係に重きを置いている。学年を超えて一緒にやることを多く取り入れている。

③アドバイス・意見

●ケースバイケース。見誤ってはいけないのは重大化。これ以上ひどくなるものは全面に介入。黒子で支える力を育てたい時もある。

●「こういう場合どうするか」という研修も一つの方法ではないか。

●いじめが深刻化するケースの中で、その家庭にいろいろ課題があると、家庭で支える機能も難しく、そもそも大人に頼らない子どもが多い。先生にも頼らないというケースがとても多い。家庭がかなり要因としてあるようなケースでは、スクールカウンセラーとか、そういうところの資源もつながって一緒に協働して取り組ませていただけたらいいと思う。

●福祉と教育は交わっているようで交わっていなかったが、今の現象としては、教育の現場の方も福祉とかいろんな方の多方面を頼ってきている。最近教育の方も我々も、一緒に連携して対応させていただいている場面が多い。分けてい

ただいて

少し一緒にやるという考えでもいいのではないか。頼ってもらった方が我々としても連携を取りやすいところがある。

●虐待の問題とか、本当に子どもたちの命が脅かされているような問題に対しては、今まで見えていなかった支援ということで、連携先も見えてくると思う。一方で先生方の理解も重要になる。

●福祉とつながる道もあるし、市独自のスクールカウンセラー配置もある。どんどん連絡をとらせていただいて、活用させていただいている。今まで以上に頼らせていただきたい。

●SCによっても得意不得意はあると思うので、いろんな形で外部の支援を受けたい。

4 連絡

次回、第2回は2月に開催を予定。

5 閉会